

「刑罰から治療へ

意識改革が必要」

依存症セミナー

依存症を知り、本人や家族、支援者への理解を深めるセミナーが18日、大分市の県総合社会福祉会館であった。県済生会、県社会福祉協議会、県の主催。

約200人が参加。第1部は、精神科医でNPO法人「性犯罪加害者の処遇制度を考える会」（東京）の福井裕輝代表理事が基調講演した。

医師として性犯罪の被害者に接する中、加害者への対応の必要性を感じた経験を踏まえ「被害者の治療やケアはもちろん、加害者への治療や支援も大切」と指摘。「性犯罪に対する日本の取り組みは海外に比べて遅れている。疾患であるという認識を持ち、刑罰から治療へと転換していくためには、司法、医療、国民の意識改革が必要」と訴えた。

第2部は「依存症からの立ち直り」をテーマにしたシンポジウム。障害や依存症を抱える受刑者への社会復帰支援を進める福岡矯正管区の職員、アルコールや薬物の依存症経験者らが意見を交わした。